

投資用語集



- 株式投資に関する基本用語 …… 1~7
- 投資手法に関する基本用語 …… 8~9
- 株取引に関する基本用語 …… 10~13
- テクニカル分析に関する用語 …… 15~19
- ファンダメンタルズ分析に関する用語 …… 20~22

索引 (五十音順)

EPS	22	空売り	10
IPO	2	逆指値注文	14
MACD	18	逆張り	14
PBR	21	逆張りオシレーター	18
PER	21	キャピタルゲイン	4
ROA	21	キャピタルロス	4
ROE	21	グロース投資	8
RSI	18	決算	20
アセットファイナンス	5	限月	13
板	11	権利落ち日	3
板寄せ	12	コーポレートガバナンス	4
移動平均線	16	ゴールデนครロス	16
インカムゲイン	4	裁定取引	10
売り気配	12	酒田五法	15
上髭	15	先物取引	6
エクイティファイナンス	5	指値注文	14
円建外債	5	サポートライン	16
買い気配	12	時価総額	20
外貨建外債	5	自己資本比率	20
下降トレンド	17	システムトレード	10
株価	1	地場証券	3
株価暴騰	7	順張り	14
株価暴落	7	上場株式	2
株式	1	上昇トレンド	17
株式市場	1	塩漬け	10
株式分割	2	四季報オンライン	22
株式併合	2	下髭	15
株主総会	1	信用取引	10
株主配当	2	スウィングトレード	9
株主優待	1	スカルピング	9

ストキャスティクス	19
スプレッド	14
ゼロクーポン債	4
前場・後場	11
高値	12
単元株式	3
チャート	15
調整局面	7
通気売上高	20
デイトレード	9
出来高	11
テクニカル分析	8
デッドクロス	17
デッドファイナンス	5
テンバガー	3
東証株価指数 (TOPIX)	6
トレンドライン	16
成行注文	14
ナンピン	9
日経 225 先物	6
日経平均株価	6
パーフェクトオーダー	17
配当利回り	22
発行株式数	1
パラボリック	18
バリュー投資	8
引け・終値	12
筆頭株主	1
ファンダメンタルズ分析	8
プライム市場	3

ブル相場	6
分散投資	8
ベア相場	6
ヘッジ	9
ベンチャーキャピタル	5
ポートフォリオ	8
ポジショントレード	9
ボラティリティ	13
ボリンジャーバンド	18
窓/ギャップ	19
未公開株	2
ミニ株式	3
保合相場	17
約定	11
安値	12
寄付・始値	11
利確	13
レジスタンスライン	16
レバレッジ取引	13
レンジ相場	17
ローソク足	15
ロスカット	13

株式投資に関する基本用語

■ 株式（かぶしき）

企業が資金調達のために発行する証券。株を購入することで、その企業の一部を所有することになります。

■ 株価（かぶか）

株式の市場での取引価格。

■ 株式市場（かぶしきしじょう）

企業が発行した株式が売買される場所のこと。

■ 発行株式数（はっこうかぶしきすう）

企業が発行している株式の総数。

■ 筆頭株主（ひっとうかぶぬし）

企業の株式を最も多く保有している株主。

■ 株主優待（かぶぬしゆうたい）

企業が一定の株式数を保有する株主に対して特典や商品を提供する制度。

■ 株主総会（かぶぬしそうかい）

株主が集まり企業の経営方針などを決議する会議。

■ 株主配当（かぶぬしはいとう）

企業の利益の一部を株主に分配すること。

■ 上場株式（じょうじょうかぶしき）

証券取引所に上場している企業が発行する株式のこと。

上場企業は証券取引所に株式を公開し、誰でもその株式を売買できる。

■ 未公開株（みこうかいかぶ）

証券取引所に上場していない企業の株式のこと。

■ IPO / 新規公開株（アイピーオー / しんきこうかいかぶ）

IPO（Initial Public Offering）とは、未上場企業が証券取引所に新規上場し、一般の投資家が株式を購入出来るようになること。

■ 株式分割（かぶしきぶんかつ）

既存の株式を複数に分割して発行済み株式数を増やすこと。例えば、1株を2株に分割すると、各株主の持ち株数は自動的に2倍になるが、理論上、1株の価値は半分になるため、資産価値は変わらない。ただし、1株当たりの配当を据え置いたままだと、株主は増配と同じ効果が得られる。

■ 株式併合（かぶしきへいごう）

発行された株式数を減らす為、複数の株式を1株に統合すること。株式数は減少するが、株主が保有する株式の資産価値には、理論上ほとんど影響は及ばないと考えられている。

■ 単元株式（たんげんかぶしき）

単元株式とは、証券取引所内で取引される売買単位のこと。

■ ミニ株式（みにかぶしき）

証券会社が保有する株式を投資家に売買できる制度のこと。通常の株式取引よりも少ない資金で株式を購入できる。単元未満株とも呼ばれる。

■ プライム市場（ぷらいむしじょう）

東京証券取引所における最上位の市場区分で、厳しい上場基準を満たした企業が上場する市場。

■ テンバガー

「ten-bagger」の日本語読みで、株価が10倍になるほど急上昇した銘柄、今後なりそうな銘柄のこと。大化け株。

■ 権利落ち日（けんりおちび）

配当金や株主総会での議決権などの権利が得られる最終約定日の翌日のこと。

■ 地場証券（じばしょうけん）

主に個人投資家を対象とし、地元エリアを営業対象として活動する小規模な証券会社のこと。

■ コーポレートガバナンス

企業統治という意味。会社は経営者だけのものではなく、株主のものという考え方のもと、企業経営を監視する枠組みのことを指し、企業の不正行為の防止と競争力・収益力の向上を総合的にとらえ、長期的な企業価値の増大に向けた企業経営の仕組みのこと。

■ インカムゲイン

保有している間に得られる利益のことを指し、債券や預金の利子収入、上場株式などの配当金収入、投資信託の収益分配金などのこと。

■ キャピタルゲイン

保有している資産を買値より高く売却することで得られる利益のこと。

■ キャピタルロス

保有している資産が価格下落し、売却することで被った損失のこと。

■ ゼロクーポン債（割引債）（わりびきさい）

利息（クーポン）の支払いがないため、額面から一定率を割引いた価格で発行される債券。満期日に額面金額が償還されるため、その差額が利息に相当する。

■ 円建外債（えんだてがいさい）

外国政府や法人などが日本市場において円建てで発行する債券のこと。サムライ債やサムライポンドとも呼ばれる。

■ 外貨建外債（がいかだてがいさい）

日本円(円貨)以外の通貨(外貨)で元本の払い込み、利子の受け取り、償還金の受け取りが行われる債券のこと。

■ デットファイナンス

企業が金融機関や投資家からお金を借り入れて資金を調達する方法。借入金融とも言う。

■ エクイティファイナンス

新株を発行し、出資者から資金を調達する方法。

■ アセットファイナンス

企業が保有する資産(アセット)を担保に資金を調達する金融手法。企業の信用度ではなく、資産そのものの価値を基に資金調達を行うため、起業間もない企業でも利用できる。

■ ベンチャーキャピタル

未上場の新興企業(ベンチャー企業)に出資して株式を取得し、将来的にその企業が株式を公開(上場)した際に売却益を狙う投資会社や投資ファンドのこと。

■ 日経平均株価（につけいへいきんかぶか）

日本経済新聞社が公表している日本の株式市場の大きな動きを把握する際の代表的な株価指数の一つ。東証プライムに上場している約2000ある個別銘柄の中から基準をクリアした225銘柄を選び算出した平均株価のこと。

「日経平均」や「日経225」とも呼ばれる。

■ 東証株価指数（TOPIX）

（とうしょうかぶかしすう／トピックス）

東京証券取引所が公表している日経平均株価と並ぶ日本の代表的な株価指標。原則、プライム市場の全銘柄の時価総額を指数化しているので株式市場全体の動きを表す。

■ 先物取引（さきものとりひき）

将来の特定の日（決済期日）に、現在約束した価格で資産や商品を売買する取引のこと。

■ 日経 225 先物（につけい 225 さきもの）

日経平均株価指数を対象とした先物取引のこと。

■ ブル相場（ぶるそうば／ブルマーケット）

株価が全体的に上昇傾向にある市場のこと。

■ ベア相場（べあそうば／ベアマーケット）

株価が全体的に下落している市場のこと。

■ 調整局面（ちょうせいきょくめん）

株価が短期的に下落すること。

■ 株価暴騰（かぶかぼうとう）

株価が急激に大きく上昇すること。急騰よりも上がり方が強い場合に使用される。

■ 株価暴落（かぶかぼうらく）

大量の売り注文が殺到して株価が急激に大幅に下落すること。

投資手法に関する基本用語

■ 分散投資（ぶんさんとうし）

投資対象を複数に分けて、リスクを減らす戦略。

■ バリュート投資（バリューとうし）

企業の価値や利益水準と比べて株価が割安な株式を買い、長期間保有する投資法。

■ グロース投資（グロースとうし）

企業の成長性や将来性を重視して、業績の伸びが期待できる企業の株に投資し、株価の上昇を狙う投資法。

■ ポートフォリオ

資産の組み合わせや、その比率のことを言い、持っている資産のリスクとリターンのバランスを見るために使用する。

■ テクニカル分析（テクニカルぶんせき）

過去の値動きからトレンドやパターンを把握し、今後の株価動向を予想するもの。

■ ファンダメンタルズ分析（ファンダメンタルズぶんせき）

企業の財務状況や業績などの基本情報を元に、株式の価値を評価するし、景気動向、金融政策、財政政策等の変化が市場全体にどのような影響を及ぼすのかを分析するもの。

■ ヘッジ

投資のリスクを軽減するために、反対のポジションを取る方法。

■ ナンピン

株価が下落した際に、さらに買い増しをして取得単価を下げる取引手法のこと。

■ デイトレード

1日のうちにポジションの保有と清算を行う取引手法。ポジションを翌日に持ち越さない取引。

■ スウィングトレード

数日から数週間の短期間で売買を繰り返す取引手法。短期のトレンドを狙って利益を得る。

■ ポジショントレード

数週間、数か月または数年単位の期間で株式、ポジションを保有する取引手法。

■ スキャルピング

数秒から数分程度の極端に短い時間に何度も売買を繰り返し利益を積み重ねるトレードのこと。

■ 信用取引（しんようとりひき）

証拠金を担保にして株式や金融商品を売買する取引手法のこと。

■ 空売り（からうり）

信用取引における取引の1つで、証券会社から借りた株式を売却し、決済期日までに買戻して利益を得る取引手法のこと。

■ システムトレード

株式などの取引を行う際に、決められたルールに従って機械的・継続的に行う取引のこと。自動取引と呼ばれる。

■ 裁定取引／アービトラージ（さいていとりひき）

同一の価値を持つ商品で一時的な価格差が生じた際に、割安なものを買ひ、割高なもの売ることで利益を得る取引。

■ 塩漬け（しおづけ）

当初買い付けた銘柄の株価が大幅に下落し、売却することで損が発生するため売却できずに長期で保有している状態。

株取引に関する基本用語

■ 板（いた）

証券取引所に出された株の指値売買注文の状況を一覧表にしたもの。板を見ることで、どの価格帯にどれくらいの注文があるかを確認できる。

■ 出来高（できだか）

一定期間内に取引された株式の総数のこと。

■ 約定（やくじょう）

株式取引などの売買が成立すること。

■ 前場・後場（ぜんば・ごば）

国内の現物株式の取引は午前と午後にわかれており、このうち午前の取引時間を「前場(ぜんば)」、午後の取引時間を「後場(ごば)」と呼ぶ。

■ 寄付・始値（よりつき・はじめね）

前場、後場それぞれの時間帯で、最初に成立した取引を「寄付(よりつき)」と呼び、この寄付の価格を「始値(はじめね)」と言う。その日の株式市場の動向を表す重要な指標の一つと見られることも多い。

■ 引け・終値（ひけ・おわりね）

前場、後場の最後の売買を「引け」といい、特に後場の最終売買は「大引け」と呼ぶ。大引けの価格を「終値」という。

■ 板寄せ（いたよせ）

売買開始時までの注文をまとめ、最適株価を出して「始値」を決定する方法。

■ 高値（たかね）

1日、1週間、1カ月、1年など、ある一定の期間で最も高い価格のこと。

■ 安値（やすね）

1日、1週間、1カ月、1年など、ある一定の期間で最も低い価格のこと。

■ 買い気配（かいけはい）

株式市場で買い注文に対して売り注文が少なかったり、なかったりして、一時的に売買が成立しない状態。

■ 売り気配（うりけはい）

株式市場において売り注文に対して買い注文がなく、売買が成立しない状態を指す。一般的には「やり気配」とも呼ばれる。

■ レバレッジ取引／証拠金取引

(レバレッジとりひき／しょうきんとりひき)

「てこの原理」という意味で、信用取引や先物取引などにおいて、借入金などを利用して手元資金の何倍もの取引を行い、投資効率を高める手法。レバレッジを効かせるということは、その分リスクも大きくなることを意味している。

■ ロスカット

投資対象が下落し、その後の回復が見込めないと判断される場合に、それ以上損失が拡大しないよう、いったん投資対象を売却して損失を確定すること。損切り、ストップロスともいう。

■ 利確（りかく）

保有している株式などの資産が値上がりして含み益が生じたところで、売却して利益を確定させること。「利食い売り」ともいう。

■ ボラティリティ

価格変動の度合いを示す言葉で、「ボラティリティーが大きい」とはその商品の価格変動が大きいことを意味し、「ボラティリティーが小さい」とは価格変動が小さいことを意味する。

■ 限月（げんげつ）

先物取引やオプション取引において、取引できる期限の満期月のことを指す。

■ 成行注文（なりゆきちゅうもん）

取引を市場価格で即座に成立させる注文方法のこと。

■ 指値注文（さしねちゅうもん）

指定した価格で売買を行う注文方法のこと。一定の価格よりも低くなったら買いたい、高くなったら売りたいという場合に利用する。

■ 逆指値注文（ぎゃくさしねちゅうもん）

指定した価格に到達すると自動的に注文が発注される注文方法。通常の指値注文とは異なり、株価が指定価格より高くなったら買い、安くなったら売りの注文を行う。

■ スプレッド

相場の値段の開き、価格差、利回り差のこと。サヤともいう。

■ 順張り（じゅんばり）

株価などの相場のトレンドに沿って売買する投資手法。
相場が上昇しているときは買い、下落しているときは売る。

■ 逆張り（ぎゃくばり）

相場の流れに逆らって売買する投資手法。
相場が上昇しているときに売り、下落しているときに買う。

テクニカル分析に関する用語

■ ローソク足（ローソクあし）

株価の始値、終値、高値、安値を示すチャート形式のこと。

■ 上髭（うわひげ）

ローソク足において、始値と終値で囲まれた長方形(実体)から上に伸びた線のこと。株価は上に行こうとしたが、売り勢力に押し返されたことを示す。

■ 下髭（したひげ）

ローソク足で始値と終値で囲まれた長方形(実体)から下に伸びた線のこと。一時売り込まれたものの、途中で買い勢力が押し戻したことを示す。

■ 酒田五法（さかたごほう）

日本の伝統的なローソク足分析手法で、相場の転換点やトレンドを予測するために使われます。

「三山」「三川」「三空」「三兵」「三法」の5つの特定のパターンのこと。

■ チャート

一定期間の株価の動きをグラフ化して見やすくしたもの。株価のトレンドや強弱、上昇・下落の傾向などを把握し、売買のタイミングを分析するツール。

■ 移動平均線（いどうへいきんせん）

一定期間の価格の平均値を折れ線グラフで表したものの。

MA(Moving Average Line)

移動平均線の種類には、単純移動平均線(SMA)、加重移動平均線(WMA)、指数平滑移動平均線(EMA)などがある。

■ トレンドライン

相場の方向性を分析するためにチャート上に引く線のこと。高値同士、安値同士を結んで、トレンドの傾向や、売買タイミングなどを判断する指標のひとつ。

■ サポートライン

株価や為替のチャートにおいて、過去の安値と安値を結んだ線で、下値を支えるライン(支持線)。

■ レジスタンスライン

株価や為替のチャートにおいて、過去の高値と高値を結んだ線で、上値抵抗線とも呼ばれる。値動きの反転が起こりやすい水準として、テクニカル分析に活用される。

■ ゴールデンクロス

短期の移動平均線が長期の移動平均線を下から上抜ける現象のこと。相場の上昇傾向を示すシグナルのひとつとして用いられる。

■ デッドクロス

短期の移動平均線が長期の移動平均線を上から下抜ける現象のこと。相場が下落傾向になる可能性があるというシグナルのひとつ。

■ パーフェクトオーダー

短期、中期、長期の移動平均線が順序よく並び、すべてが上向き(または下向き)になっている状態のこと。

■ 上昇トレンド (じょうしょうトレンド)

株価が直近の高値と安値を切り上げながら上昇していく状態のこと。

■ 下降トレンド (かこうトレンド)

株価が直近の高値と安値を切り下げながら下落していく状態のこと。

■ レンジ相場 (レンジそうば)

ボックス圏相場のこと。一定の変動幅の中で価格が上がったり、下がったりを何度も繰り返す状態でボックスの幅のことをレンジとも言うので、レンジ相場とも呼ばれる。

■ 保合相場 (もちあいそうば)

相場のトレンドがほぼ横ばいで推移している状態を指す。方向感が乏しく、上昇も下落もしにくい状態。

■ パラボリック

ローソク足チャートの上下に放物線を描いたテクニカル指標で、相場のトレンドが反転するタイミングを予測するために用いる。

■ 逆張りオシレーター（ぎゃくばりオシレーター）

相場の強弱や過熱感を判断して、売買のタイミングを図るテクニカル分析の指標。

逆張りオシレーターとして代表的なものは、RSI(相対力指数)、ストキャスティクス、ボリンジャーバンド、MACD。

■ MACD（マックディー）

移動平均収束拡散(Moving Average Convergence Divergence)手法の略で、株式や為替相場のトレンド分析に用いられるテクニカル指標。

「MACDライン」「シグナルライン」「OSCI」という棒グラフの3つで構成されています。

■ ボリンジャーバンド

株価の変動範囲を示すチャート指標で、移動平均線を中心に上下にバンド(線)が描かれる。

■ RSI（アールエスアイ）

Relative Strength Index(相対力指数)の略で、株価の買われ過ぎや売られ過ぎを判断するテクニカル指標。

■ ストキャスティクス

「売られすぎ」や「買われすぎ」といった相場の過熱度合いを示す、オシレーター系のテクニカル指標。

「ファーストストキャスティクス」と「スローストキャスティクス」の2種類がある。

■ 窓／ギャップ（まど）

株価チャートのローソク足とローソク足の間の空間のことを指す。株価が大きく上昇または下落したときに発生し、株価の勢いの強さを示す。

また、前日の終値よりも当日の始値が高値で寄り付くことでも現れる。

ファンダメンタルズ分析に関する用語

■ 時価総額（じかそうがく）

企業の規模を表す指標。

時価総額＝株価 × 発行済株式数

基本的に発行済株式数は日々変動しないので、株価の動きとともに変化する値。

■ 通期売上高（つうきうりあげだか）

企業が一年を通じて、サービスや物を販売することで稼いだ売上金額の総額のこと。売上高は、企業がどれだけ利益を出しているかを計算する源泉であり分析するうえで大切な数字である。

■ 自己資本比率（じこしほんひりつ）

企業の総資産に占める自己資本の割合を示した財務指標。

自己資本比率(%)＝純資産 ÷ 総資本 × 100

自己資本比率の数字が高いほど、負債の比率が低く財務の安全性が高い企業と言える。

■ 決算（けっさん）

一定期間の収入・支出を計算して利益や損失を計算する企業の成績のこと。本決算と呼ばれる1年間の決算から半期、四半期、月次がある。日本の上場企業は現在年4回決算を発表をする。一般的に決算書と呼ばれるものは「貸借対照表」、「損益計算書」、「キャッシュ・フロー計算書」の3種類。

■ PER（ピーイーアール）

Price Earning Ratioの略語で、日本語では株価収益率。企業の現在の株価が「割高」か「割安」かを判断する時に使われる。

PER(倍) = 株価 ÷ 1株当たりの利益

1株当たり利益は、損益計算書(P/L)の当期純利益を発行済株式数で割ったもの。

■ PBR（ピービーアール）

Price Book-value Ratioの略語で、日本語では株価純資産倍率。

PBR(倍) = 株価 ÷ 1株当たり純資産

PBRは理論上の資産価値に対して株価がどれくらいの水準にあるかを判断する指標になる。

■ ROE（アールオーイー）

Return On Equityの略語で、日本語では自己資本利益率。企業の自己資本に対する当期純利益の割合を示す財務指標。

ROE(%) = 当期純利益 ÷ 自己資本 × 100

企業が株主から預かった資本をどれだけ効率的に活用しているかを示す。

■ ROA（アールオーエー）

Return On Assetsの略語で、日本語では総資産利益率。企業が保有する総資産に対して、どれくらいの利益を生み出しているかを示す財務指標。

ROA(%) = 当期純利益 ÷ 総資産 × 100

■ EPS(イーピーエス)

Earnings Per Shareの略語で、日本語では1株あたりの純利益を意味する。

当期純利益÷発行済株式数

■ 配当利回り（はいとうりまわり）

配当利回りとは、株価に対する年間配当金の割合を示す指標のこと。

■ 四季報オンライン（しきほうオンライン）

東洋経済新報社が発行する「会社四季報」のデータベースを基に、上場企業の業績、財務データ、株価指標などをほぼリアルタイムで提供するオンラインサービスのこと。